

早稲田大学エクステンションセンター講座

## 『誰にウクライナが救えるか』

－「はざまの国」の戦争と平和について考える－

### 第1回 原形はいかにしてつくられたか

2025年11月7日

エコノミスト・元ロシアトヨタ社長 西谷公明

#### はじめに

- －「はざまの国」
- －ロシア、ウクライナと私
- －視点と全体構成
- －統計は何をば語らん

#### 1. 平穏なる独立、その意味

(根底に農業国であること、スラブ農民の穏やかな気質)

- ・ソ連崩壊（モスクワにおけるソ連・保守派とロシア共和国・改革派の権力闘争）によって独立
- ・8月クーデター後、ウクライナ共産党の民族独立派への合流
  - ➡「独立宣言」採択（91.8.24）、出席400人中346人（86.5%）が賛成
  - ➡独立の是非を問う国民投票（91.12.1）、90.3%が賛成
- ・ウクライナ共産党クラフチュク氏の大統領選出（91.12.1）
  - ➡穏健独立派クラフチュク氏（最高会議議長 61.6%）  
vs 急進独立派チョルノヴィル氏（西ウクライナ・リヴィウ州議会議長 23.3%）
  - ➡国民は安定を選ぶ  
＝国家としての脆さの裏返し（領土と民族の一体性を欠いた独立）

#### 2. ウクライナという国

##### (1) 繁栄への期待

- ・ソ連のなかでロシアに次ぐ第二の行政単位
  - ➡面積約 60 万平方キロ（ヨーロッパ最大、日本の 1.6 倍以上）
  - 人口約 5200 万（ソ連の人口 2 億 8700 万の約 18%）
- ・産業：ロシアに近い東/南部＝重工業地帯 vs ヨーロッパに近い中/西部＝農村地帯
  - ➡石炭と鉄鋼、農業の国（ソ連の鉄鉱石の 45%、鉄鋼の 35%、農業生産の 23%を占有）
- ・言語：東/南部中心に 1100 万のロシア系住民（全人口の 22%。33%はロシア語が第一言語）
  - ➡帝政ロシア/ソ連のもとでロシア語を共通言語としてひとつの社会を形成

## （２）ロシア人にとり、ウクライナとは・・・

- ・ロシア国民のルーツと国家のアイデンティティに関わる土地
- ・ロシアの歴史的な発展と不即不離の重要な一部を成す土地

## ３．国造りはいかに為されたか

### （１）ロシアからの独立を賭けた闘い

- ・民族主義者主導による国造り
- ・「独立宣言」は、将来の「中立」政策とともに、通貨の発行とウクライナ軍の創設を謳う
  - ➡ロシアは激しく反発、領土問題を喚起（現下の戦争へいたる確執の原点）
  - ➡経済戦争（原油・ガス価格の引き上げ vs 穀物輸出の制限）

### （２）「革命」にして「維新」にあらず

- ・旧共産党官僚（首相を含め）が行政の実務を担う
  - －民族独立派は国家統治の経験と技量を欠く
  - －行政機構の不在＝領土を束ねるための権力機構の消滅
- ➡ソ連の遺構（トカゲの切れた尻尾）に頼らざるを得ず（共産党との妥協の背景）

### （３）最初の揺り戻し

- ・1993 年夏の政治危機後、大統領選挙で親ロ・クチマ氏が当選（94.7）
  - ➡ロシアとの関係改善、経済安定、新通貨発行へ（96.9）
- ・ウクライナ憲法制定（96.6）
  - ➡「中立」が消える（マイダン政変後、NATO 加盟を憲法に規定）
- ・独立ウクライナをめぐる地政学
  - ➡地政学な選択と民族主義の圧力に揺れて安定を欠く
  - ➡ならば、ガリツィアとは？

以上

早稲田大学エクステンションセンター講座

『誰にウクライナが救えるか』

－「はざまの国」の戦争と平和について考える－

## 第2回 ガリツィア、「不寛容」という伝説

2025年11月21日

エコノミスト・元ロシアトヨタ社長 西谷公明

### －本日の主題－

- 「はざまの国」の来歴
- どういう意味で「はざま」なのか？

### 1. 逝きし世の記憶

- キエフルーシ（9c 後半－13c 前半）とは  
＝キーウを都とする「ルーシ」の公国
- ・地中海貿易の中継地として殷賑をきわめ、中世ヨーロッパ世界に燦然と輝く（10c 末－11c 半ば）。
- ・ギリシャ正教の導入（10c 末）と公国のビザンツ化
- ・四分五裂（12c 半ば）、モンゴル襲来（13c 半ば）により衰退

➡ [ロシア史観] モスクワ公国（14c 前半）～モスクワ大公国（1480）～ロシア帝国

- ウクライナ・コサックとは
- ・15-16C、ポーランド王国/リトアニア大公国の南の草原/辺境の守り手として登場
- ・16-17C、独自の軍事組織と政治文化を有する自治集団を形成

➡ 近代ウクライナの歴史のはじまり

Q：ウクライナ語はどういう言語か？

Q：いつ頃、どのようにして「ウクライナ」と呼ばれるようになったか？

- ロシア帝国とコサック国家（17C～）
- ・ロシアの庇護を頼んでポーランドと戦う～ペレヤスラフ協定（フメリニツキー、1654）
- ・スウェーデンと結んでロシアと戦う～北方戦争/ポルタヴァの戦い（マゼッパ、1709）

➡ ポーランド分割（18C 後半）により現在のウクライナの大半がロシア帝国の支配下へ

## 2. ガリツィア、非ロシアの歴史

- ガリツィアとは

- ・ウクライナ西部を中心とする地域（ハーリチ・ヴォリーニ公国の一部）
- ・独ソ不可侵条約（1939）の密約によってソ連に占領、併合（1941）  
：もともとはポーランドに属す、ヨーロッパの歴史とともに発展

➡「内なるロシア vs 内なるヨーロッパ」を形成

- ユニエイトとは

＝ウクライナ・カトリック（東方典礼を守りつつ、教理はカトリック）

- ・ポーランド支配下で正教会が分裂、一部がローマ・カトリックと合同（プレストの合同、16C末）  
：ロシア/ソ連の支配下で禁止。ウクライナ民族主義の精神的支柱となる（18C後半）
- ・ポーランド消滅後、オーストリア領ガリツィアにおいて、ウクライナ人を統合する反ロシア民族教会と化す

➡宗教における「はざま」（＝異形）を象徴

➡政治意識の一体性を欠いた独立

- 民族独立運動の拠点

- ・ウクライナ国民共和国（1917）と西ウクライナ国民共和国（1918）の樹立
- ・独ソ戦とウクライナ民族主義運動、ウクライナ蜂起軍（UPA）と反ソ連パルチザン

➡ソ連崩壊末期、中心都市リヴィウで人民戦線「ルーフ」が結成

## 3. マイダン政変（2014年2月）、その後

- 地政学的選択に揺れる

- ・「10年毎に革命が起きる」  
：1994年東へ（揺り戻し）、2004年西へ（オレンジ革命）  
  いったん東へ戻るも、2014年再び西へ
- ・ロシアによるクリミア併合、ドンバス紛争へ
- ・将来におけるEU、NATO加盟を憲法に明記（2014年5月）

以上

早稲田大学エクステンションセンター講座

## 『誰にウクライナが救えるか』

－「はざまの国」の戦争と平和について考える－

### 第3回 ロシア、北方のフロンティア国家

2025 年 11 月 28 日

エコノミスト・元ロシアトヨタ社長 西谷公明

#### －本日の主題－

#### ●「ロシアについて－北方の原形」

#### 1. プーチンがロシア国民の心を掴んだ日

「苦しく、長い、疲れ切った航海の末に、  
クリミアとセヴァストポリがついに祖国の港へ帰って来た。祖国の港、ロシアへの永遠の帰還だ」  
（「赤の広場」におけるプーチン大統領演説から、2014.3.18）

- プーチン大統領は、なぜウクライナ侵攻に踏みきったか？
  - ・ソ連崩壊シンドローム
  - ・プーチン支持率：60%→90%へ急上昇（独立系「レヴァダセンター」調べ）
  - ・クリミア併合（2014.3）とウクライナ侵攻（2022.2）のロシア内政における類似性
- ウクライナ侵攻 3 年半後のいまは（ロシア有識者インタビューから）

#### 2. 広大なる境域帝国

「プーチン大統領、ロシアの国境はどこまで行けば見えるのですか？」  
「よい質問だ。ロシアに国境などないのだよ」  
（全ロシア学童地理学コンクール表彰式に際して、2016.11）

- 近代ロシアはモンゴルの殻を破って現れた  
（モスクワ大公国独立、イワン 3 世、1480）
  - ・700 年来の古層（西ヨーロッパ・ルネサンスの影響を受けず）

- ➡16 世紀半ば以降（ロシア帝国、イワン 4 世）、陸上を南へ、東へと領土を拡大
- ➡18 世紀半ば、ついにベーリング海峡を越えてアラスカまで到達（毛皮商人＋コサック）

・4 世紀かけて 900 倍以上、北海道の 3 分の 1 から世界全土の 15%へ広がる

●ロシア領土の特殊性：本国と植民地が陸続きで、かつ一体的に広がる

- ➡拡大した領土の長い外縁部＝獲得した本土を守るための緩衝地帯  
（ベラルーシ、ウクライナ、コーカサス、中央アジア、モンゴル、ロシア極東地方など）

●ソ連崩壊とウクライナ領土（対ロシア国境）の画定

・民族自決 or 旧国家（帝国）の行政上の境界線

- ➡ソ連体制下の行政上の境界を独立後の国境とすることで合意（1990.11）  
（ただし、当時のロシアはウクライナの完全独立を想定しておらず）

### 3. 社会の鼓動を聴きながら－ロシアトヨタ時代－

●ウクライナ・オレンジ革命（2004.12）とロシア社会の変化

●順風を満帆に受ける

- ・2000 年代、資源大国ロシアの復活。日本企業のロシア進出が相次ぐ
- ・オイルロケット

（トヨタ車の販売：2 万 6 千 [2003] から 20 万 5 千台 [2008] へ）

●ウクライナ、NATO 加盟意思書簡を送付（2008.1）

・NATO ブカレスト首脳会議（08.4）、ジョージア内戦/ロシア軍侵攻（08.8）

➡遠ざかる冷戦終結後

・ロシアはクリミアを手放さない

- ➡ロシア人のアイデンティティと直結
- ➡地中海へ開かれる地政学上の要衝

以上

早稲田大学エクステンションセンター講座

## 『誰にウクライナが救えるか』

－「はざまの国」の戦争と平和について考える－

### 第4回 ロシア経済は持ち堪えるか

2025年12月5日

エコノミスト・元ロシアトヨタ社長 西谷公明

#### －本日の主題－

##### ●強さの背景にあるものは・・・

#### 1. 石油国家ロシア

- ・前史（世界地図を参照ください）  
「ゾロアスター教をみよ・・・」  
（マーシャル・ゴールドマン著『石油国家ロシア』より）
- ・ロシア革命後－ウラル、西シベリアの資源開発
- ・ソ連崩壊後－資源超大国ロシアの復活－
- プーチンのロシア
- ・資源輸出レントを基盤とする中央集権国家
- ・エネルギー産業の集約・国有化、石油・ガス採掘/輸出税の導入
- ・資源大国の実像

#### 2. ロシア経済、崩れない理由

- 崩れないロシア
- ・戦争特需と製造業基盤
- ・制裁の影響は・・・？
- ・強さの背景 “臥薪嘗胆”

➡危機を経て、外圧に耐えうる経済へ

●原油価格の長期推移から読み解く

➡プーチンはその日のために準備していた？

- ・持続可能性（財政規律と経常黒字）
- ・有能なテクノクラートたち（ナビウリナ中銀総裁のこと）

※協道へ逸れますが・・・

- ・有識者インタビューから（2025 年 11 月実施、配布資料参照）

### 3. あとどれぐらい戦争を続けられそうか？

●景気ピークアウト、後退から低迷へ

- ・高金利ショック
- ・その時、企業と国民はどう行動したか？

●中国との結束（2023 年 3 月、習近平訪日）

- ・中国の支え
- ・中国経済への依存を深める

➡余力を残す、すぐに崩壊するとは考えにくい

●マトリョーシカは何をば語らん

ロシア史は中央集権国家の歴史である・・・。

➡独裁者は弱さを見せない。

（弱さを見せた時が、終わりの始まり）

以上



早稲田大学エクステンションセンター講座

## 『誰にウクライナが救えるか』

－「はざまの国」の戦争と平和について考える－

### 最終回 コウノトリは見ている

2025 年 12 月 12 日

エコノミスト・元ロシアトヨタ社長 西谷公明

#### －本日の主題－

##### ●陸と海と

#### 1. 歴史は4度繰り返す？

- 後世の歴史家はどう記すか
  - ・歴史の断面として
  - ・ソ連崩壊後の新局面として
  - ・グローバルな視点から

##### ●ウクライナ独立戦争

- ・北方戦争に乗じて（ポルタヴァの戦い）
- ・ロシア革命期（ウクライナ中央ラダ政府の樹立）
- ・独ソ戦に乗じて（西ウクライナにおける農民蜂起）

#### 2. 旋回する西側世界

##### ●バイデンからトランプへ

- ➡大西洋同盟から一国単独主義へ
- ➡「終わらない戦争」から「終えるべき戦争」へ

- ・和平の調停役（前政権が始めた誤った戦争の「後始末」）
- ・アメリカによる「損切り」（援助の停止、兵器の有償化）
- ・ヨーロッパの困惑、限界の露呈（兵器と資金の両面で）

- 支援が滞るとき
- ・アメリカの支援が止まる
- ・戦争のコスト
- ・欧州による肩代わり
- ・「賠償金ローン」が意味すること

## ※ここで一服

「世界史は陸の国に対する海の国のたたかい、  
海の国に対する陸の国のたたかいの歴史である」  
(カール・シュミット著『陸と海とー世界史的考察』より)

- この1年の世界の動きを振り返ると・・・
- ー米・中、米・ロを基軸として回転
  - ー他方、ヨーロッパは「はざまの国」を守れるか？

## 結びにかえてーコウノトリは何を思う？

- 戦争の現在地
  - 【ケースⅠ】ゼレンスキー政権の自壊（最悪ケース）
  - 【ケースⅡ】終わらない戦争（最悪ケースを避ける）
- 根っ子はどこにあるか？
  - ・地政学上の選択に揺れた30年
    - = 逆にいうと、ウクライナ国民としてのアイデンティティを形成できなかった30年
  - ➡ウクライナは国家の在り方、国家論を問われている
- ・遠いヨーロッパ
  - ➡詰まるところ、ヨーロッパにとり、ウクライナとは何なのか？
- 将来における「主体的中立」という選択肢
  - ➡ウクライナの将来は、ウクライナ国民自身が決めるべきこと

**ウクライナの安定はウクライナ国民にしかできない**

<了>